

マタニティケア・ウィメンズヘルスフェローシップを修了した家庭医の立場から

ジェンダー・セクシュアリティ領域はマタニティケア・ウィメンズヘルス(MCWH)、メンズヘルス、SRHR(Sexual and Reproductive Health and Rights)、LGBTQ+など幅広い分野を含んでいるが、今回は MCWH に焦点を当てる。

私の故郷は人口 7 万人強が在住しているが市内に分娩施設がなく、妊婦健診や子宮頸がん検診も市内で殆ど実施できていない状態が約 20 年続いている。この問題を解決するため 2021 年に亀田総合病院で MCWH フェローシップの 1 期生として研修を行った。開業の準備のため現施設に移ってからも総合内科と産婦人科に所属し継続して診療にあたっており、異なる施設でプライマリ・ケア医として MCWH を実践する上で見えてきた様々な問題や今後の展望について概説する。

またプライマリ・ケア医による MCWH 分野の研究を発展させていくための前提条件として、そもそも本邦の若手プライマリ・ケア医が MCWH を体系的に学ぶ機会があるのか調査した結果も紹介する。